

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3490500109		
法人名	社会福祉法人政樹会		
事業所名	グループホーム呉ベタニアホーム長迫		
所在地 (電話番号)	737-0035呉市長迫町10番3号		(電話)0823-23-2003
評価機関名	広島県シルバーサービス振興会		
所在地	734-0007 広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成20年6月18日	評価確定日	平成20年7月17日

## 【情報提供票より】(20年3月13日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	19人	常勤13人, 非常勤5人, 常勤換算	4.9人

## (2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2階建ての	2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000円)	有りの場合 償却の有無	有(入居1年未満)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600円			

## (4)利用者の概要(3月13日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	7名	要介護2	0名			
要介護3	2名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	86歳	最低	77歳	最高	94歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	福原内科
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

呉ベタニアホーム長迫の運営母体は社会福祉法人政樹会で、同グループにケアハウス、デイサービス、小規模多機能ホーム、居宅介護支援事業所などがあり、これらの事業と連携を図れる恵まれた環境のもと、常に良質のサービスを提供するよう職員は一丸となってチームワークよく生き生きと働きをされている。2階建ての2階部分にホームがあり、建物の中心は都会の外れの長屋をイメージされているのか、長屋横丁のような街角がある。天窗からは太陽の光が差し、その下にあるテーブルとオシャレな椅子、また、1階にあるデイサービスからの話し声やざわめき、何かを運んだり、動かしたりする音などが聞こえてきて、まるで普段の街中での活気と生活感がここにある。そんな恵まれた環境の下、職員の優しい見守りにより、利用者は安心して穏やかに生活をされている。職員は強い責任感で仕事をするので、安心してお年寄りを任せて欲しいと力強く語る姿が頼もしく感じられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回評価が初めてであり改善課題の該当は見当たらない。全職員のチームワークの良さが売り物で、初めての評価とは思えないほどの質の高いサービスを提供しているように伺えた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価が初めてであるが、サービス評価を実施するに当たり評価の意義と目的を全職員に伝えられ、これらを全員で自己評価に取り組むようにしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4.5.6)</p> <p>管理者・職員が地域密着型サービスの特徴を十分把握して運営推進会議が地域に根ざした形で開催されている。今後はまず近隣の地域の方からの身近な出席者を多岐に求めて、運営推進会議の更なる充実を図られることを期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>当ホームでは、サービスの質の確保・向上のために、日常的に家族の意見や苦情等を聞き、気軽に話し合える雰囲気作りに取り組み、しっかり意見交換を行っている。入所時には、ホームの苦情窓口が設けてあることを知らせ、届いたクレームは記録に残し改善へのスタートという姿勢で取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>当ホームは住宅地の中に位置し、近隣に公園があり、この公園がホームの利用者にとっては体力維持と気分転換のための散歩コースともなっており、地域の人たちと挨拶を交わしたり、共に清掃をしたり、地域の老人クラブと交流する絶好の場となっている。</p>

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	組織の母体の理念に基づいて、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、利用者、家族と連携しながらホーム独自の理念の具体化に取り組むことを念頭において作り上げられている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	内部研修、ミーティング等で理念を共有し、理念の具体化に向けて日常的な活動の中で振り返り、確認し合いながら取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	近くには公園があり、散歩などを通して日常的に地域の人々や近所のお年寄りと交流している。特に町内会の掃除や草取り、地区の老人クラブやふれあいサロン等での地域行事には積極的に参加して開かれたグループホームを目指している。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
4	7	評価の意義の理解と活用	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価の活用方法についての話し合いや勉強会を実施し、サービスの質向上に活かしている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域の協力を得て、定期的開催されている。事業所での取り組み内容や課題に対する改善策等が話し合われ、サービスの向上に活かされている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

6	9	市町村との連携	事業を行っていく上で生じる運営やサービスの問題解決に向けて、所轄の行政担当者との連携を密に取り、支援や指導を得て解決を図っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告	ホームの中での暮らしぶりや事業所の知らせは、四季折々に記録されたアルバムや事業所発行のベタニアたよりで報告されている。個々の生活の様子や金銭管理については、家族の来訪時に報告し、その時、意見や要望を聞いている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
8	15	運営に関する家族等意見の反映	日常的に家族の意見や苦情を聞き、何でも話し合える雰囲気作りに心がけている。その時の要望や苦情はミーティングで話し合い、サービスの向上に反映させている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
9	18	職員の異動等による影響への配慮	併設の小規模多機能の職員とグループホームの職員の大半を兼務とし、なるべく多くの職員と馴染みの関係を作るようにしている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み	内部研修では初任者・中級者と段階を踏んで研修会を実施し、能力のレベルアップを図っている。また、外部の研修会には積極的に参加、受講する機会を設けている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
11	20	同業者との交流を通じた向上	地域の同業者との研修会や母体の法人内合同研修会などの交流会や学習会を持つことにより情報を交換し合い、ネットワーク作りとサービスの質の向上を目指している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>短期間のショートステイを体験していただきながら、職員や他の利用者との生活の場に徐徐に馴染み、安心、納得して生活が出来るのを見極めながら、安定的な利用に移行するよう利用者の視点に立って支援している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>無理のない範囲で共に作業しながらその中での会話を楽しんでいる様子であった。</p>	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で声をかけながら、会話の中でどのように暮らしたいのか、何をしたいのかなどの把握に努めている。言葉や表情などからもその真意を推し測り、それとなく確認するように努力がなされている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者が安心して安全に快適に暮らせるように本人や家族の要望を聴き、課題となることをスタッフ全員で話し合ってケアプランを作成している。</p>	
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、利用者の状態の変化や状況、家族や本人の要望に応じて柔軟に見直しを行っている。</p>	

3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援	利用者・家族の状況に応じて、通院や送迎また特別な外出支援などに柔軟に対応し、本人と家族の暮らしを守る支援をしている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援	施設として利用者の心身の変化や異常が生じた場合は気軽に相談できる提携医院を確保しているが、家族が、かかりつけ医を希望する場合は意向に沿って対応している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有	現時点では終末期ケアは扱っていない。		開設したばかりの事業所で重度者や終末期の人を対象としていないが、今後、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように事業所が対応できる最大の支援方法の検討を今後望みます。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底	全ての職員が個人情報保護に関して理解に努め、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないような言葉かけが図られている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
21	52	日々のその人らしい暮らし	利用者にとって当ホームは自分の家庭であり、家庭にはそれぞれのペースがあるという認識で個別ケアに努めている。しっかり話を聞いたり、繰り返し説明をするなど一人ひとりの状態や思いに配慮して対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			

(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
22	54	食事を楽しむことのできる支援	利用者の好みや嗜好を大切に、季節が感じられる献立や彩り・食器等にも配慮してスタッフと一緒に会話を楽しみながら食事の時間を過ごしている。	
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
23	57	入浴を楽しむことができる支援	利用者一人ひとりの習慣や意向に沿って健康状態を見ながら柔軟に支援している。入浴を嫌う利用者には、タイミングを計りながら対応している。	
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日常生活の中で、今までの生活習慣を出来るだけ継続できるように洗濯・掃除等も出来る範囲で個々の出番を見つけながら、力が発揮できるように支援している。ボランティアの協力を得て刺繍や習字など趣味を活かした支援もしている。	
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
25	61	日常的な外出支援	天候やその日の気分を考慮しながら日常的に散歩に出かけるように努めている。	
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
支援				
26	66	鍵をかけないケアの実践	全ての職員が施錠することの弊害を理解しており、出で行く気配を見落とさない見守りや連携プレーで安全を確保している。	
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
27	71	災害対策	避難訓練は定期的に消防署の協力を得て実施している。また、災害時に地域との協力が得られるように取り組んでいる。	
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援	利用者一人ひとりの1日の栄養量や水分量が十分摂取されているかをきめ細かくチェックしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は食事の準備の匂いがただよい、生活の音が聞こえ、心地よい音楽と季節の花などで日常的な生活を感じられる場となるように工夫している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮	利用者や家族と相談し、使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるように配慮している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 呉ベタニアホーム長迫

評価年月日 H20年 3 月 13 日

記入年月日 H20年 5 月 30 日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 宮岡 尚子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	高齢者が人生の締めくくりに、ベタニアに出会えて良かったと思われるケアをすること。また職員も専門性を発揮し、ベタニアで働けて良かったと思えるような職場にしていく事を目指している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	内部研修会等で理念を共有し、どのようにその理念を現場で活かしていくか話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホームページ開設により様々な方に見て頂いている。また、地域の自治会の方、民生委員等には運営推進会議に出席してもらい、ご助言を頂いている。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	積極的にあいさつを励行し、地域にとけこむようにしている。 地域の戦没者慰霊祭の為、千羽鶴を作成し、また慰霊祭にも参列させていただく等の地域交流をもっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会長、民生委員は運営推進会議に出席して頂いている他、近隣の高齢者の方に関する相談を受けている。		自治会、老人会の加入については自治会長と検討している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	利用者に必要であるが、地域の高齢者にとって必要と思われたので、坂道の道路に手すりをつけてもらった。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の項目を、確認、話し合うことにより、評価項目を目指している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を行い、利用者のサービス状況等を報告している。参加者からの質問、意見等はサービスに反映させ、サービス向上に努めている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	質問・報告等、機会があれば市町担当者に連絡している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	内部研修において学習する機会を持っている。またホーム内に制度の説明文書を掲示している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修において学習する機会を持っている。またホーム内に制度の説明文書を掲示している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結んだり、解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情受付の方法についてホーム内に掲示し、また、意見箱も設置している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	訪問される都度、ご家族に対し、ご利用者のご様子を報告している。金銭管理をしているご利用者については、定期的に出納簿と領収書をお渡しし、報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口の設置には入居時の説明し、また玄関に閲覧できるようにしている。また意見箱を設置し、だれでも自由に意見を述べてもらえるようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にミーティングを行い、職員の意見を聞く機会を設けている。また提案書をもって提案する機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務形態のパターンを多くつくることにより柔軟な対応ができるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>小規模・GH の職員の大半を兼務とし、なるべく多くの職員となじみの関係を作るようにしている。</p>		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内部研修では、初任者、中級と段階をふんでの研修を行っている。外部の研修には積極的に参加している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>外部研修や姉妹法人との共同研修会でサービスの質を深める努力をしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個人相談を年に最低2回以上して職員個人が抱えている悩みを聞く機会を設けている。また、職員親睦会を開いたり、福利厚生を使ったレクリエーションでストレス解消の仕組みを作っている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>目標管理シートを導入することによって職員個人の個別の目標を設定して、それを上司がサポートしながらキャリアアップできるようにしている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>できるだけ多くコミュニケーションをとったり、新規利用者の情報を職員間で確認している。            自宅に行き、話しの場を作り、利用者が話しやすい環境をつくっている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前は家族からも情報収集を行い、入所後の生活に反映できるようにしている。また、気になる点等は報告し、早期解決に努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	同法人居宅や小規模のケアマネジャーとも相談しながら本当に必要なサービスを提供できるように心がけている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	同法人のデイサービスやケアハウスからの利用者は顔なじみの職員がいるので安心される。体験利用なども積極的に勧めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お一人お一人に無理のない範囲で出来る事はしていただいている。また、一緒に作業をしながらの対話の時間を大切にしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の施設での状況や家での状況を情報交換しあい、一体的にケアしている。家族にも施設へ来ていただくなどし、話し合う機会をもっている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	利用者本人の意見と、ご家族の意見を尊重した利用につなげることができるよう努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>時々、自宅や子どもの家に外出・外泊等行っていけるよう計画をたて実施している。</p>		<p>祭りや学校へ行くなどの地域参加を積極的に行ないたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士の関係がスムーズに形成されるよう、小規模と協力しながらすすめている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>今のところ、そういう家族はいない。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>出来る限り本人本位に努め、また家族の意向も考慮して検討している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>利用者の趣味などを表にして、まとめて職員間で共有している。家族に聞く、本人に聞く、ケアマネジャーに聞くなど、情報を集めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>早出、遅出、日勤、夜勤の報告・連絡を密にしている。家族とも連携し、24時間体制で見守っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の今までの生活歴、習慣等を本人・家族から情報収集を行い、本人の希望にそえる介護計画を作成している。又、スタッフから日々の生活状況を聞き作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な見直し、更新時の見直しだけでなく、状態やニーズの変化に応じて見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日誌等、個人ファイルに細かく記入し、日々のケアに活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	小規模と協力しながら、幅広く柔軟に支援を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	習い事の先生や、警察のパトロールの強化等を頼むなどしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の状態を考慮した施設への移動等、支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的な情報交換等している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ナースによる判断で、かかりつけ医の受診や、月に2～3回の往診を行うなどしている。また、かかりつけ医との情報交換を密にしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医にその都度、診療してもらい、専門医による治療が必要な場合は紹介していただくという形をとっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤としてナースを置き、専門的に医療との連携を図っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院後の宿泊の受け入れ体制をたったり、病院とのコーディネートを行うなどしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>現在は行っていない。</p>		<p>将来的には終末期に対応できるようスタッフの教育、体制を築いていきたい</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>見極めや準備を行っている。</p>		<p>同上</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>できる限りの情報提供などを行っている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報の取り扱いは慎重を期するとともに言葉かけできつい印象を受けた時は職員同士で注意しあう等している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>訪室してマンツーマンで話を聞いたり、繰り返し説明する等、一人ひとりに合わせた対応をし、満足のいく生活を送っていただけるよう努力している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>安全面のこともあり、本人の希望に100%応えられる訳ではないが、なるべく納得していただけるよう努めている。</p>		<p>利用者の希望を最大限かなえるための柔軟な対応とバリエーションを増やしたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望者には訪問美容を。行きつけのある人はそちらを利用していただいている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理や配膳などをやっていただいていたが、現在は、感染症や転倒などのリスクを優先してしまい、調理や片付けは職員が行っている。		一人ひとりの状況に合わせて調理や配膳等行っていただくように取り組みたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	コーヒーや紅茶などのメニューを選択して頂き、お出ししています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	リハビリパンツの人は日中は布パンツとパットに変えてもらったり、排泄パターンを把握してトイレ誘導する等している。また、トイレは常に清潔に保つように努力している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には午後からの入浴としており、いつでも入れる体制はとれていない。入る順番は利用者の希望を考慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースを把握し対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常生活の中で、今まで行っておられた生活習慣をできるだけ継続できるよう洗濯、掃除等も自分でしてもらっている。またボランティアの方に来ていただき、刺繍・習字をして頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	能力に応じた対応をとっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩等の外出は安全面を考慮してマンツーマン体制なので、希望に充分に応えられていない。		体調にあわせて、できるだけ外出できる機会を計画し、入所者の希望をとりいれる。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	年に数回、外出レク(食事、花見等)を実施している。家族と共に外出する機会は自由に作っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば自由に電話できるようにしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問はいつでもしていただける様にしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修を設けたり、職員同士の声かけを行うようにしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日によって、満足な見守り体制が取れない時や、利用者が著しく帰宅願望等で落ち着かない時には、施錠する場合がある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	なるべく全利用者の様子を職員が連携して気を配るように努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個別の能力に応じて対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクマネジメントの研修など行っている。また、内部研修を行っている。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	研修等を定期的に設けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	近所の協力の呼びかけと、定期的な防災訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族の来所時や電話で生活状況やリスクについてお話しするが、安全面の方を優先することもある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ナースによる対応や体調不良などの情報交換を密にしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ナースが中心となり適切に情報交換している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	こまめな水分補給を心がけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に口腔ケアを行っており、できる限りご自分でやっていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養士による栄養管理や、夜のトイレ後の飲水に気を配っている。 また、部屋にペットボトルのお茶を置き、毎日交換している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	塩素消毒や手洗いをこまめに行っている。またマニュアルを作成し周知している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	特定の店からの食材を使用期限を守りながら使い、清掃除菌もこまめに行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	施設らしさを取り除き、地域に溶け込んだ建物になっている。また施設周辺の危険な場所には手すりを設置している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	建物が“小さな町”を想定して建てられており、設計段階から工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	強化ガラスで1Fが見下ろせる井戸型のテーブルを囲む、くつろぎのスペースを設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今までの本人の使用していた家具等を持ち込んでいただき、これまでの生活の延長で生活できるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	午前中に1度は必ず換気を行う。本人の希望・体調にあわせた室温調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個別に合ったトイレを使い分けたり、できるだけ物に頼らないようにするため、意図的に手すりをつけないといった工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できる範囲のことはやっていただくように、個別の対応をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ウッドデッキで日向ぼっこをしたり建物裏の空き地に小さな畑を作っている。		